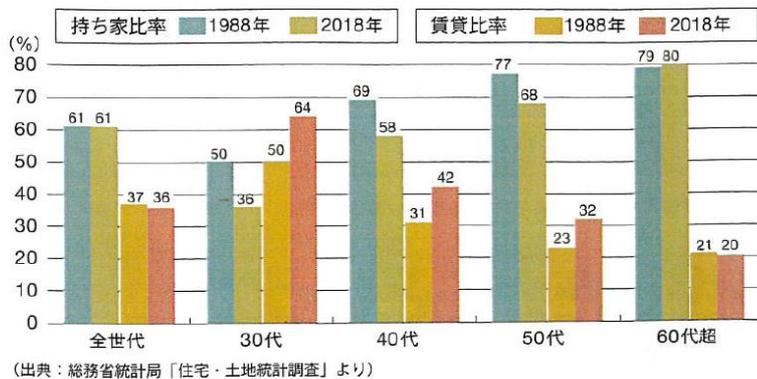


【若い世代に賃貸志向強まる??】

総務省が5年おきに発表しているデータに「住宅・土地統計調査」があります。全世代でベースで持ち家、賃貸住宅の比率がどう推移しているのかを把握できます。

図表1 1988年と2018年の持ち家、賃貸の世代別比率比較

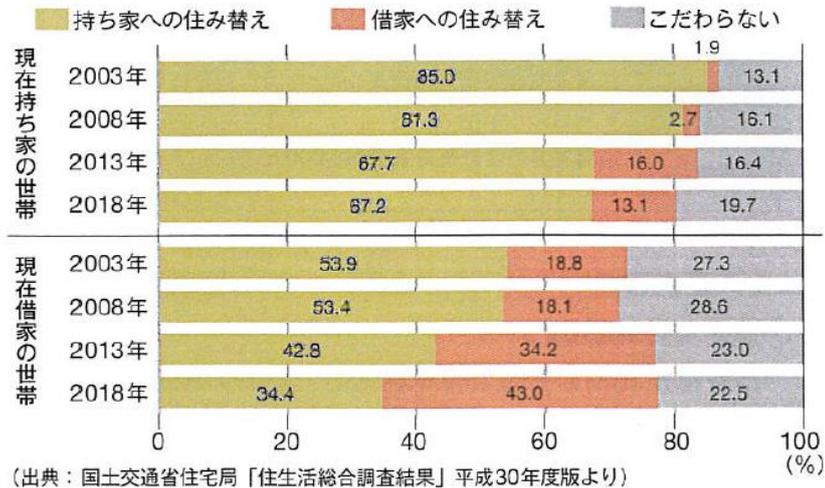
1988年の住宅総数=3,741万3,400軒 2018年の住宅総数=5,361万6,300軒



「自分の家を構えて一人前」などといわれた時代がかつてありましたが、昨今は様々な事情で積極的に賃貸を選ぶ人が増えています。上記グラフの世代別持ち家比率を比較しますと、30代、40代、50代でそれぞれ大きく減少していることが分かります。当然これらの世代における賃貸比率が大きく増加しています。

この30年間で、働き盛りの世代では「住まい方」に対する意識が大きく変わったと推測されます。

図表3 今後の居住形態（持ち家・借家）に関する意向



上記グラフは、今後の居住形態の意向を調査した内容です。現在借家に住んでいる人で持ち家への住替えを希望している人は急速に減少しています。この背景としては、婚姻率の低下や離婚率の上昇等が考えられ、今後も賃貸志向が強まってくることが想定されます。

不動産の売買については、上記を踏まえると、今後空家は増加する一方で買い手が減少していくことが予想されます。売りたいくても売れない物件が増加していくのではないのでしょうか。

不動産の売却は、お早めにご検討下さい！！